

「探究」が 「市民」を育てる

～「問い続け、行動し続ける15歳」への挑戦～



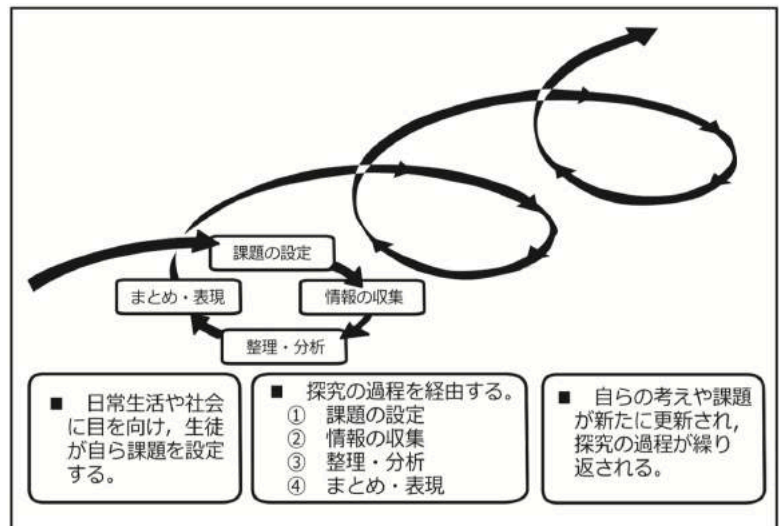
北海道教育大学附属函館中学校

背景 background

「総合的な学習の時間」とは

「総合的な学習の時間」は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとして2000年からスタートしました。

特にこの時間では、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく「探究的な学習」が大切にされています。この「探究的な学習における生徒の学習の姿」は、右のような図で示されています（文部科学省、2017、p.9）。



本校のこれまでの「総合的な学習の時間」の課題

本校のこれまでの「総合的な学習の時間」には、大きく2つの課題がありました。

- (1) 宿泊的行事に付随した「調べ学習」となっている
- (2) 探究的な学習の過程とスパイラルな展開が不明確な計画・実践となっている

本校では第2学年に宿泊研修、第3学年に修学旅行を実施し、とくに修学旅行では「CL学習」（CL：キャリア アンド ライフスキル）と称して、インタビュー調査を通じた自身のキャリア形成に関する調査や発表を行ってきました。しかし、この取組は、修学旅行という宿泊的行事に付随した取組に終始しており、他の教育活動や前後の「総合的な学習の時間」との関連が明確ではありませんでした。これは、第2学年の宿泊研修にも当てはまるものでした。

そして、「情報の収集」や「まとめ・発表」は行われていたものの、「課題の設定」や「整理・分析」については十分な取組が行われてはおらず、探究的な学習の過程が不明確な取組となっていました。また、このような「調べ学習」は、スパイラルに発展・展開していくことを明らかにした計画・実践とはなっていませんでした。

方針 policy

課題を克服する「探究」の挑戦

こうした課題の克服を目指し、本校の「総合的な学習の時間」を「探究」と呼称するとともに、本校の教育課程における位置付けを明らかにし、探究のカリキュラムを大きく改善しました。新たな「探究」の方針は、次の3点です。

- (1) 探究のカリキュラムは、探究的な学習の過程をスパイラルに展開する
- (2) 探究を学校の教育活動の中核とする
- (3) 探究を「本校が育成を目指す資質・能力」を育む学習活動の核とする

(1) 探究のカリキュラムは、探究的な学習の過程をスパイラルに展開する

探究では、探究的な学びの過程である「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」を経るとともに、1つの探究的な学びの過程が、次の新たな探究的な学びの過程につながっていくことが重要です。

そこで、以下のような3つの大きな学習活動を設定し、探究的な学習の過程をスパイラルに展開するカリキュラムを編成しました。

学習活動名	時期	生徒のグループ	学習内容
グループ探究活動A	第1学年8月～3月	同一のテーマに興味・関心を有する7人 (同一の学級から構成)	① テーマを選択する(国際理解、情報、福祉、健康、安全、環境、スポーツ、観光、まちづくり、交通、人口、防災、食、資源・エネルギー、教育、言語、科学技術、芸術、哲学から選択)。 ② 同一のテーマごとに教師が構成した生徒のグループごとに、 課題の設定 を行う。 ③ 設定した課題について、複数の教師から指導を受け、よりよい課題の設定に取り組む。
グループ探究活動B	第2学年5月～9月	同一のテーマに興味・関心を有する3～4人 (学級に関わりなく編成)	④ 課題を解決するための 情報の収集 を行う。情報の収集としては、インタビュー調査や文献調査、インターネットからの調査などを行う。 ⑤ 収集した膨大な情報を 整理・分析 する。 ⑥ 課題に対する 結論 を構築し、発表資料の作成を行う。 ⑦ 発表 を行う。 ⑧ ①から⑦までの自らの取組の評価を行う。
卒業研究	第2学年10月～ 第3学年12月	1人	① 個人の興味・関心に基づいて 課題を設定 する。以下については、グループ探究活動A・Bの③～⑧に同じ。

また、こうした3つの大きな学習活動を支えるために、次の取組を行いました。

①「探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習」

探究的な学習をよりよく展開するために必要となる基礎的・基本的なスキルの習得を目指して、「主に国語科に関する事柄」、「主に情報活用に関する事柄」の指導を実施しました。

主に情報活用に関する事柄①	第1学年 6～7月	学級担任 情報化担当主任	情報化担当主任	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル ・Chromebookの活用（BYODで一人一台が所有） ・ICT機器等の活用に関するルールづくり ・適切なパスワードの設定 ・G suite for educationの活用 など
主に国語科に関する事柄	第1学年 5～6月	学級担任	国語科	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー調査の仕方 ・手紙やメールの書き方 ・レポートの書き方（様式、引用や参考文献の示し方など） など
主に情報活用に関する事柄②	第2学年 6月	北海道教育大学 教員	北海道教育大学 教員	<ul style="list-style-type: none"> ・文献調査のために必要なスキル ・OPACの活用 ・書誌情報の収集方法 ・図書館の活用方法 ・web情報の適切な活用 など

②探究的な学びを創るためのリレー講演会「ツキイチプロジェクト」

「探究」では、生徒の興味や関心を出発点にした「課題の設定」を大切にすることにしました。そのためには、生徒がすでに興味や関心を持っている分野だけでなく、より広い分野について見聞を深めることが必要です。

そこで、様々な分野の専門家を本校へお招きし、その分野に関してご講演いただくリレー講演会「ツキイチプロジェクト」を実施しました。

2017・2018年度に開催したツキイチプロジェクトは、以下の通りです。

年	回	講師（役職は講演時のもの）	演題
2017	1	上山 恭男 氏（北海道教育大学教授）	ことばとことばの距離—日本語と英語は近いか遠いか—
	2	本田 真大 氏（北海道教育大学准教授）	心理学の研究と実践—心の探究と生活への応用—
	3	木村 育恵 氏（北海道教育大学准教授）	ジェンダーの視点で学ぶ私たちの多様性
	4	橋本 忠和 氏（北海道教育大学教授）	描画の情報を読み解く—この絵は誰の絵？もしかしてサルの絵？—
	5	金光 秀雄 氏（北海道教育大学教授）	つながり方の数理情報工学—グラフ・ネットワーク理論・4色問題・経路探索—
	6	田中 邦明 氏（北海道教育大学教授）	地域や世界の人々と取り組む大沼の自然環境保全—水に汚れの原因とその問題解決策を探求して—
	7	細谷 一博 氏（北海道教育大学准教授）	「障がい」を理解する
	8	内藤 一志 氏（北海道教育大学教授）	絵本の世界—国語の教科書と比較して—
2018	1	松浦 俊彦 氏（北海道教育大学教授）	バイオミメティクス—生物から学ぶ環境技術—
	2	稲垣 忠 氏（東北学院大学教授）	情報社会を生きるチカラ
	3	福田 一彦 氏（江戸川大学教授）	眠りについての正しい知識—心身の病気や成績と直結しています—
	4	齋藤 利仁 氏（父母と先生の会 前会長）	働くこと、地域に貢献すること
	5	野村 修也 氏（中央大学法科大学院教授）	リーガル・マインドを身に付ける—社会の課題を解決するために—

(2) 「探究」を学校の教育活動の中核とする

これまで、付随的な学習活動として位置付けていた探究を、学校の教育活動の中核に位置付けました。具体的には、学校行事で取り込まれる訪問調査等を、探究の各学習活動に組み入れることとしました。すなわち、宿泊的行事でもインタビュー調査を行います。それはあくまでもその学習活動における「情報の収集」の一場面である、とおさえました。

各学習活動と関連付けた学校行事は、以下の通りです。

学習活動名	関連付けた学校行事	時期
グループ探究活動A	宿泊研修（第1学年、札幌市、1泊2日）	9月
	市内調査活動（第1学年、函館市、1日）	12月
グループ探究活動B	市内調査活動（第1学年、函館市、1日）	7月
卒業研究	修学旅行（第2学年、首都圏、3泊4日）	2月

(3) 探究を「本校が育成を目指す資質・能力」を育む学習活動の核とする

2017（平成29）年告示の学習指導要領では、教育課程を編成する際、学校教育全体や各教科等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながらか教育活動の充実を図ることを求めています（文部科学省、2017、p.20）。そして、資質・能力は「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」という「3つの柱」で構成されていると説明しています（文部科学省、p.20）。

本校では、まず、探究の目標を以下のように定めました。

探究的な見方・考え方を働かせ、自らの興味や関心に基づいた事象に関する横断的・総合的な学習を行うことを通して、根拠や主張を明らかにしながらよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自らの興味や関心に基づいた事象に関する探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、真理を追究する探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から自らの興味や関心に基づいた問いを見だし、自分で課題を立て、情報を収集し、整理・分析することを通して根拠を明らかにした責任ある主張や合意を形成するとともに、相手意識のあるまとめ・表現をすることができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、よりよい社会の建設に協力しようとする態度を養う。

そして、探究で育成を目指す資質・能力を以下のように設定しました。

探究（総合的な学習の時間）	
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら設定した課題を解決するために必要な知識を得たり、技能を身に付けている。 ・自ら設定した課題を解決するための学習を通して、探究的な学びの良さを理解している。
思考力、判断力、表現力等	課題の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの課題の中から、解決の見通しを持つことのできる適切な課題を設定している。 ・グループの仲間と話し合って課題を設定している。 ・グループの仲間との交流を通して課題を発見し、積極的に関わろうとしている。
	情報の収集 <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー調査や、インターネット及び書籍などのさまざまな手段を活用して、情報を収集している。 ・課題を解決するためのインタビュー調査を行うのにふさわしい人物や施設等を訪問し、必要な情報を聞き取っている。
	整理・分析 <ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報から、課題を解決するためにふさわしい情報を選択し、適切に整理している。 ・疑問に感じた点や困難さを感じた点について、仲間と話し合うことで、よりよく解決している。 ・課題を追究するために収集した様々な情報を多角的に捉え、適切なものを判断して選択している。 ・収集した情報から課題解決に結びつく情報を選択したり、組み合わせたりしている。
	まとめ・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・発表資料の作成や発表の準備をする際には、これまでに学習した知識や技能を活用して取り組んでいる。 ・課題やその追究の過程について、わかりやすい構成を考えながらまとめ、発表している。 ・伝える相手の立場や状況を意識しながら、適切な方法を用いてまとめ、発表している。 ・伝える相手の反応を見ながら声の大きさや身振り手振りを工夫するなどして、発表している。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの仲間とともに協力して課題の解決に取り組むことの良さを実感している。 ・自ら設定した課題を解決する学習を通して、学習したことを自らの生活や学習に生かそうとしている。 ・自ら設定した課題を解決する学習を通して、次に探究する新たな課題を見出そうとしている。

さらに学習指導要領は、資質・能力について、各教科等で育成を目指す資質・能力に加えて、教科等横断的な視点に立った育成を目指していく資質・能力もあることを示しました。具体的には、「学習の基盤となる資質・能力」と「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」です（文部科学省、2017、p.21）。

本校では、育成を目指す資質・能力として、「各教科等の資質・能力」、学習の基盤となる資質・能力として「情報活用能力」、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力として「市民として求められる資質・能力（市民性）」を設定しました。以下の表は、「情報活用能力」と「市民として求められる資質・能力」を3つの柱に基づいて整理したものです。

情報活用能力	
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能 ・ 情報と情報技術を活用して問題を発見・解決するための方法についての理解 ・ 情報社会の進展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解 ・ 情報に関する法・制度やマナーの意義と情報社会において個人が果たす役割や責任についての理解
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉える力 ・ 問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力 ・ 相手や状況に応じて情報を適切に発信したり、発信者の意図を理解したりする力 ・ 複数の情報を結びつけて新たな意味を見出したり、自分の考えを深めたりする力
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を多面的・多角的に吟味しその価値を見極めていこうとする態度 ・ 自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする態度 ・ 情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする態度 ・ 情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度

市民として求められる資質・能力（市民性）	
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題に関する現状や制度、概念、仕組みについての理解 ・ 調査や諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題について、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力 ・ 課題の解決に向けて、協働的に追究し根拠をもって議論することを通して合意を形成する力
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立した主体として、よりよい社会の実現を視野に、自ら社会へと働きかけ、主体的・能動的に事柄に参画しようとする力

教科等横断的に育成を目指す資質・能力については、各教科等で育成を目指すようなカリキュラムを構築することが必要です。

本校は、その育成の核として、探究が非常に大切であると考えました。また、探究は、各教科等で育まれた資質・能力を発揮する機会としても重要な役割を果たすことができると考えました。その具体化として、探究で展開される学習活動において、どのような学習内容が情報活用能力や市民性のどの資質・能力の育成にアプローチできるのかを整理しています。

情報活用能力（第1学年）			
3つの柱	資質・能力	学習活動	学習内容
知識及び技能	情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習【主に国語科に関する事柄】	電話のかけ方や手紙（礼状）の書き方、電子メールの書き方、引用の仕方、参考文献等の書き方、インタビュー調査の方法について演習を通して理解する。
		探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習【主に情報活用に関する事柄】	ChromebookやG suite for Educationの使い方やタイピング等について演習を通して身に付ける。
	情報に関する法・制度やマナーの意義と情報社会において個人が果たす役割や責任についての理解	探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習【主に情報活用に関する事柄】	情報活用において必要なモラルやマナー、ルールについて具体的な場面や事例に即して考え理解する。
思考力、判断力、表現力等	問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力	グループ探究活動A	課題を解決するためのインタビュー調査を行うのにふさわしい施設や人物について、インターネットを適切に活用して探す。
	相手や状況に応じて情報を適切に発信したり、発信者の意図を理解したりする力	グループ探究活動A	課題解決のために収集し、整理・分析を行った情報を、小学校6年生と保護者等へ伝えることを踏まえて、ふさわしい発表内容と方法を考える。
	複数の情報を結びつけて新たな意味を見出したり、自分の考えを深めたりする力	グループ探究活動A	課題を解決するために収集した様々な情報を結びつけたり、新たな意味を見出したりして、課題の解決のために自分の考えを作る。
学びに向かう力、人間性等	自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする態度	グループ探究活動A	探究活動における自分やグループの情報活用について振り返り、グループ探究活動Bでの課題を明らかにする。

情報活用能力（第2学年）			
3つの柱	資質・能力	学習活動	学習内容
知識及び技能	情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習【主に情報活用に関する事柄】	文献調査のために必要なスキルとして、OPACの活用や書誌情報の収集方法、図書館の活用方法、web情報の適切な活用について演習を通して理解する。
思考力、判断力、表現力等	問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力	グループ探究活動B 卒業研究	課題を解決するためのインタビュー調査を行うのにふさわしい施設や人物について、インターネットを適切に活用して探す。
	相手や状況に応じて情報を適切に発信したり、発信者の意図を理解したりする力	グループ探究活動B	課題解決のために収集し、整理・分析を行った情報を、学校祭の来場者等へ伝えることを踏まえて、ふさわしい発表内容と方法を考える。
	複数の情報を結びつけて新たな意味を見出したり、自分の考えを深めたりする力	グループ探究活動B 卒業研究	課題を解決するために収集した様々な情報を結びつけたり、新たな意味を見出したりして、課題の解決のために自分の考えを作る。
学びに向かう力、人間性等	自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする態度	グループ探究活動B	探究活動における自分やグループの情報活用について振り返り、卒業研究での課題を明らかにする。

情報活用能力（第3学年）			
3つの柱	資質・能力	学習活動	学習内容
思考力、判断力、表現力等	相手や状況に応じて情報を適切に発信したり、発信者の意図を理解したりする力	卒業研究	課題解決のために収集し、整理・分析を行って導き出した自らの結論を、公共の場において発表するために、ふさわしい発表内容と方法を考える。
	複数の情報を結びつけて新たな意味を見出したり、自分の考えを深めたりする力	卒業研究	課題を解決するために収集した様々な情報を結びつけたり、新たな意味を見出したりして、課題の解決のために自分の考えを作る。
学びに向かう力、人間性等	自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする態度	卒業研究	探究活動における自分の情報活用について振り返り、今後の自らの課題を明らかにする。

市民として求められる資質・能力（市民性）

3つの柱	資質・能力	学習活動	学習内容
知識及び技能	課題に関する現状や制度、概念、仕組みについての理解	卒業研究	個人が設定した課題の追究のために必要となる制度や仕組み、原理等を理解する。
	調査や諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能	探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習【主に国語科に関する事柄】	電話のかけ方や手紙（礼状）の書き方、電子メールの書き方、引用の仕方、参考文献等の書き方、インタビュー調査の方法について演習を通して理解する。
		探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習【主に情報活用に関する事柄】	ChromebookやG suite for Educationの使い方やタイピング等について演習を通して身に付ける。
		探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習【主に情報活用に関する事柄】	文献調査のために必要なスキルとして、OPACの活用や書誌情報の収集方法、図書館の活用方法、web情報の適切な活用について演習を通して理解する。
思考力、判断力、表現力等	課題について、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力	グループ探究活動A グループ探究活動B 卒業研究	課題を解決するために収集した様々な情報を多面的・多角的に考察するとともに、課題に対する結論を構築するためにそれらの情報を構成に判断する。
	課題の解決に向けて、協働的に追究し根拠をもって議論することを通して合意を形成する力	グループ探究活動A グループ探究活動B	課題を解決するために収集した様々な情報を結びつけたり、新たな意味を見出したりして、他者との議論を通して、課題の解決のために考えを形成する。
		卒業研究	少人数で構成されるゼミにおいて、自らの探究の経過や成果を報告するとともに、他者との議論を通して、自らの考えや論をさらにより良いものへと再構築する。
学びに向かう力、人間性等	自立した主体として、よりよい社会の実現を視野に、自ら社会へと働きかけ、主体的・能動的に事柄に参画しようとする力	卒業研究	課題の設定時や卒業論文執筆、成果発表において、自らの研究の意義や価値を明らかにする。

実践 practice

第1学年5～7月

探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習

探究的な学習によりよく取り組んでいくために必要となる基礎的・基本的なスキルの習得を目指して、【主に情報活用に関する事柄】と【主に国語科に関する事柄】に取り組みました。



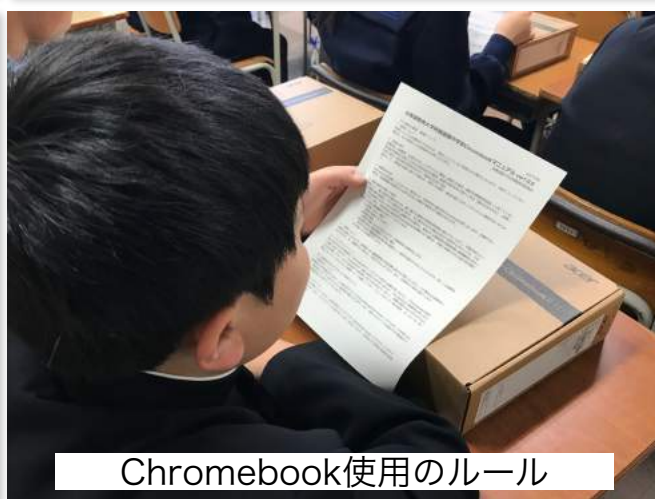
インタビューの練習



情報モラルに関する授業



Chromebookの配布



Chromebook使用のルール

【主に情報活用に関する事柄】と【主に国語科に関する事柄】として、次のような内容に取り組みました。

	内容
主に情報活用に関する事柄	電話のかけ方や手紙（礼状）の書き方、電子メールの書き方、引用の仕方、参考文献等の書き方、インタビュー調査の方法など
主に国語科に関する事柄	情報モラルやChromebookの活用（BYODで一人一台が所有）、ICT機器等の活用に関するルールづくり、適切なパスワードの設定、G suite for educationの活用など

※2017年度には【主に数学科に関する事柄】として、データ処理に関する内容を取り扱ったが、内容や実施体制から、第1学年数学科において実施することとした。

第1学年8～3月

グループ探究活動A

探究グループの構成

日本十進分類表を参考にして教員が設定した19のテーマから、興味のある3つを選びました（右図）。そしてこの結果に基づいて、各クラス（1クラス35人）の中で5つの探究グループが構成されました（1グループ7人）。

課題の設定

同じテーマのもとに集まった7人のメンバーが、探究する課題の設定に取り組みました。

課題の設定では、次の4点が【Point】として示され、これらを踏まえて取り組みました。また課題は、学年団の教員2名から承諾印を受けることで確定とする方法を取り、質の高い課題の設定を目指しました。

北海道教育大学附属函館中学校
総合的な学習の時間「探究」 事前アンケート

総合的な学習の時間「探究」では、皆さんの興味や関心を学習の出发点にします。そのため、事前アンケートを実施します。
表のキーワードの中で、自分が今の時点で興味や関心を持っているものを必ず3つ選んで○を付けてください。

注意事項
・このアンケートを踏まえて、皆さんが「グループ探究活動A」でのテーマを決めます。
・このアンケートで自分が選んだテーマについて取り組むのではなく、このアンケート結果を踏まえて学年の先生で検討し決定します。
※本日の朝の会で「探究」担当の係生が全員分を回収し、担当者に出してください。

記入例 芸術 ○ 哲学

自分が興味や関心のある事項3つの欄に○をつける

国際理解	情報	
環境	福祉	
健康	安全	
環境	スポーツ	
観光	まちづくり	
交通	人口	
防災	食	
資源・エネルギー	教育	
言語	科学技術	
芸術	哲学	

（ ） 組 （ ） 番 氏 名 （ ）

【Point ①】 テーマに関わりのある課題であること

自分たちの興味や関心につながる課題

【Point ②】 訪問学習での訪問先へ行くことで解決に近づける課題であること

宿泊研修に行く意味のある課題

【Point ③】 8月から2月までの間に解決できる具体的な課題であること

限られた期間の中で、中学1年生として解決まで導くことのできる課題

【Point ④】 自分たちのためだけではなく、他の人にとっても価値がある課題であること

自己満足ではなく、上級生や小学生が知りたいと思える課題

この結果、次のような課題が設定されました（一部）。

テーマ	課題
観光	札幌の観光地で働いている人は函館を仲間だと思っているのかライバルだと思っているのか？
スポーツ	活躍する選手を支えるために大切なことや、気をつけていること
健康	健康とは何か。そして医療にたずさわる人達と人々の健康を支える人たちはどのような思いを持って仕事をしているのか。
芸術	北海道の美術館の展示や照明は作品を生かすためにどのような工夫がされているのだろう。
情報	各放送局・新聞社の人々はそれぞれ独自性と公平性のバランスをどのように保っているか
科学技術	微生物が身の回りの社会でどのように役立っているか
哲学	人はなぜ考えることをやめないのか。それに対する哲学者の答えは何か。

情報の収集

課題を設定した後、7人では情報の収集等を行うことが難しい場面があることから、7人が2つに分けられ、それぞれが課題を解決するための情報の収集に取り組みました。

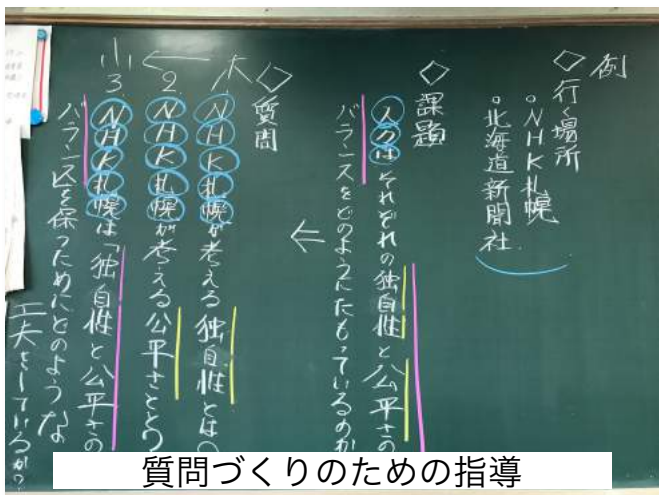
とくにグループ探究活動Aでは、札幌市での宿泊研修を情報の収集の機会として設定していることから、インターネットや書籍を活用した学習と並行して、自主研修の訪問先の調査や訪問先への質問づくりを重点的に取り組みました。



訪問先への行き方の確認



訪問先についての調査



質問づくりのための指導



質問づくりの様子

こぼればなし

宿泊研修では、全部で30のグループが2か所を訪問するように計画しました。しかし、訪問のアポイントメント取りや行程の検討などを行うことは、2年生の修学旅行前に重点的に行うこととして、宿泊研修では、教員がテーマに基づいて、訪問先を選定・依頼し、その訪問先への移動手段や行程などを作成しました。教員は夏休みをかけて、電話やメールを使って合計約60カ所に訪問のお願いをしました。

「情報の収集」としての宿泊研修

宿泊研修では、JR札幌駅前にある北海道教育大学札幌駅前サテライトhue-pocketを拠点にして、各グループが自主研修に向かいました。また、安全を確保するため、行動するグループがGPS付き携帯電話を1台ずつ持ち、本部ではパソコン画面を通じて確認を行いました。



訪問先でのインタビュー調査



グループを位置を示す画面

また、宿泊研修では、以下の皆さんや事業所の方々に、インタビュー調査へのご協力をいただきました（一部 敬称略）。

札幌市経済観光局	北海道さっぽろ観光案内所	札幌もいわ山ロープウェイ
札幌市時計台	札幌観光協会	札幌義肢製作所
さっぽろテレビ塔	北海道歯科医師会	北海道医師会
中央健康づくりセンター	札幌義肢製作所	株式会社コンサドーレ
株式会社北海道バスケットボールクラブ	宮の森美術館	北海道立近代美術館
三好好太郎美術館	札幌国際芸術祭実行委員会事務局	札幌市教育文化会館
大倉山ジャンプ競技場	札幌オリンピックミュージアム	どうぎんカーリングスタジアム
北海道立総合体育センター	株式会社北海道日本ハムファイターズ	北海道放送本社（HBC）
北海道文化放送（UHB）	北海道新聞本社	NHK札幌放送局
アサヒビール北海道工場	北海道科学技術総合振興センター	札幌市青少年科学館
北海道コカ・コーラボトリング	北海道教育大学札幌校	北海道大学工学部
北海道大学文学部	藤女子大学	北翔大学

「情報の収集」としての市内調査活動

札幌市での宿泊研修に加えて、自分たちの生活の場である函館市をフィールドとした情報の収集として、市内調査活動を実施しました。当日は、北海道教育大学函館校を拠点にして、1日すべてを利用して実施しました。訪問先としては、観光をテーマとするグループは函館市役所などを訪問しました。他には、北海道大学水産学部や北海道教育大学の研究室を訪問するグループもありました。



整理・分析

宿泊研修や市内調査活動、そして書籍やインターネットなどを通して収集した数多くの情報から、自分たちの課題の解決のために必要な情報を整理していきました。また、それらの情報を分析して、自分たちの課題に対する答えを導き出していきました。

とくに2つのフィールド調査では、異なるフィールドで実施したことから、多くの有意義な情報を手に入れることができました。

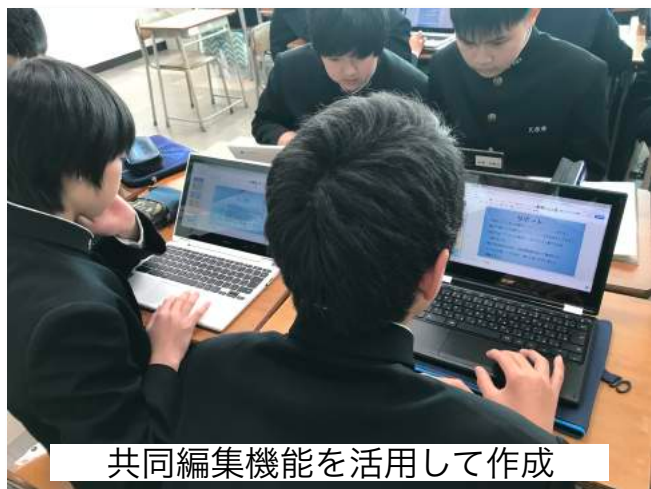


まとめ・表現

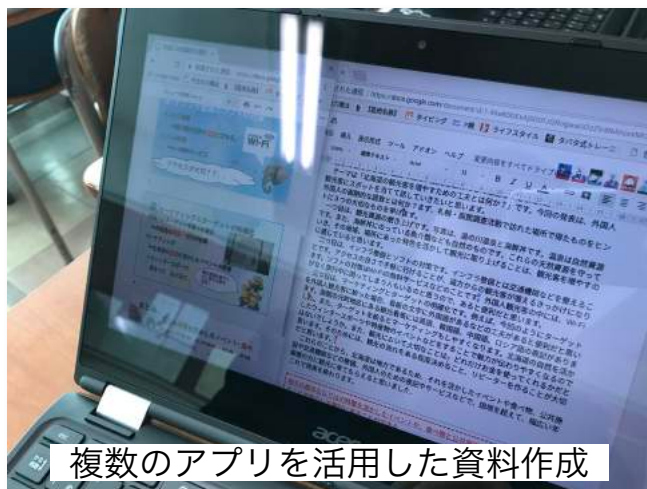
情報の整理・分析を踏まえて、まとめを行いました。

まずは冬休みに、グループ内の生徒が各自で課題に対するまとめを行い、それを整理した発表資料を、Googleスライドを活用して作成しました。

冬休み明けの3学期には、冬休みの個人の取組を踏まえて、Googleスライドの共同編集機能を活用して、発表資料を作成しました。また、保護者や附属函館小学校6年生児童などを対象にして実施する「成果報告会」に向けて、聴衆を意識した発表の準備や練習を行いました。



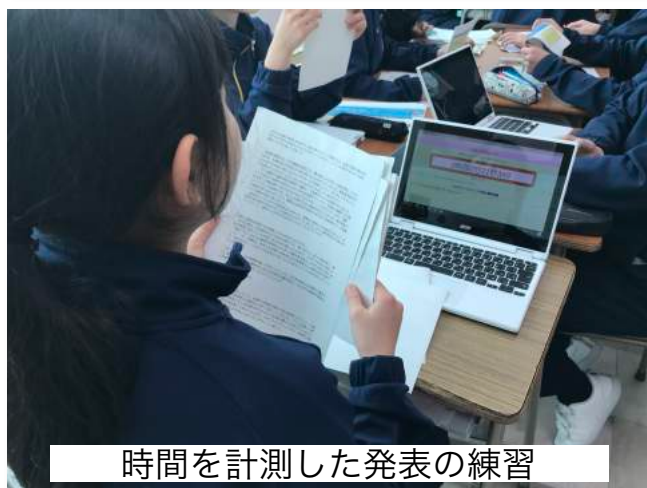
共同編集機能を活用して作成



複数のアプリを活用した資料作成



グループ内での発表の練習



時間を計測した発表の練習

「まとめ・表現」としての成果発表会

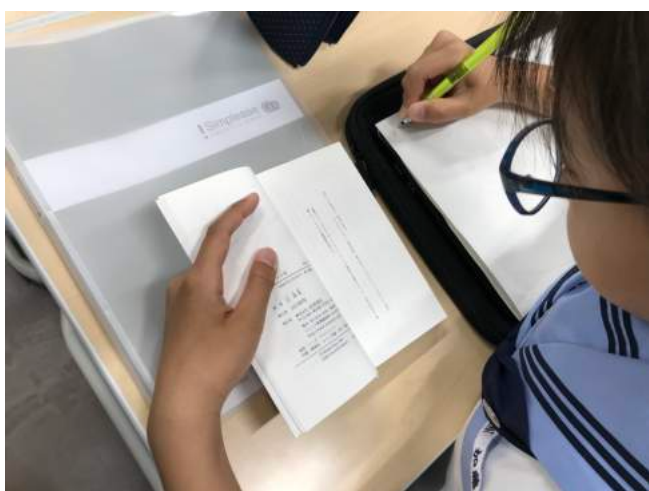
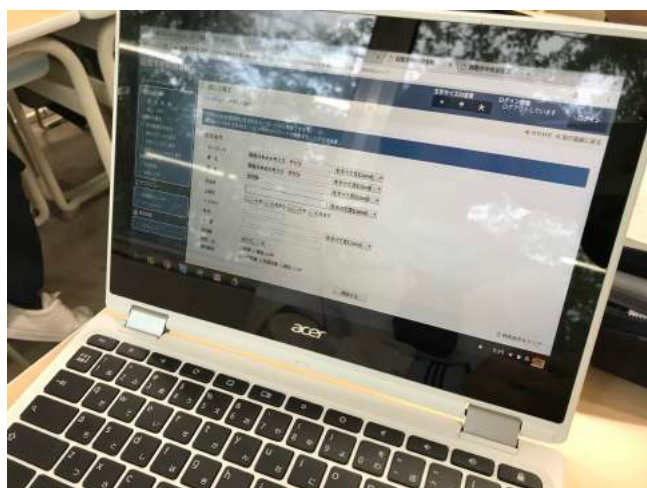
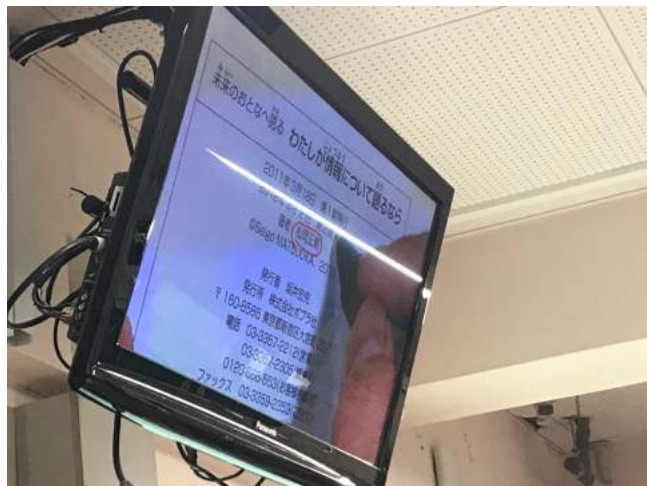
グループ探究活動Aの取組の成果を発表する機会として、保護者や附属函館小学校6年生児童を対象にして「第1回成果報告会」を開催しました。当日は、Googleスライドを印刷したものを模造紙に貼り付けるかたちで発表を行いました。



第2学年6月

探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習

探究的な学習によりよく取り組んでいくために必要となる基礎的・基本的なスキルの習得を目指して、【主に情報活用に関する事柄】に取り組みました。第2学年では、書籍やwebの活用、図書館の活用を中心に学習しました。この学習については、北海道教育大学の山口好和先生に講師をご担当いただきました。



第2学年5～9月

グループ探究活動B

探究グループの構成

日本十進分類表を参考にして教員が設定した19のテーマから、興味のある3つを選びました(右図)。その結果に基づいて、クラスに関わらず、全部で30の探究グループが構成されました(1グループ3～4人)。

課題の設定

同じテーマのもとに集まった3～4人のメンバーが、探究する課題の設定に取り組みました。課題の設定では、次の4点が【Point】として示され、これらを踏まえて取り組みました。また、課題は、グループ探究活動Aと同様に、学年団の教員2名から承諾印を受けることで確定とする方法を取り、質の高い課題の設定を目指しました。

北海道教育大学附属函館中学校
総合的な学習の時間「探究」探究活動B事前アンケート

①このアンケートは、2年生の5月から9月までの間に取り組む「グループ探究活動B」のテーマを決定するためのアンケートです。
②同一のテーマに関心を持つ人たち(3～4人)が集まって、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行います。
③「グループ探究活動A」での自分の取組からテーマを選んでも構いませんし、まったく関わりのないテーマを選んでも構いません。大切なことは「今の自分の興味・関心のあるテーマを選ぶ」ということです。
④「グループ探究活動B」の中には旅行の行事を位置付けていませんが、「市内調査活動」を実施する予定です。(時期は未定)。

自分が興味や関心のある事柄3つの横に○をつけてください。

国際理解	情報	
福祉	健康	
安全	環境	
スポーツ	観光	
まちづくり	交通	
人口	防災	
食	資源・エネルギー	
教育	言語	
科学技術	芸術	
哲学		

()組()番 氏名()

【Point ①】 テーマに関わりのある課題であること
自分たちの興味や関心につながる課題

【Point ②】 市内調査活動での訪問先へ行くことで解決に近づける課題であること
市内調査活動に行く意味のある課題

【Point ③】 6月から9月までの間に解決できる具体的な課題であること
限られた期間の中で、中学2年生として解決まで導くことのできる課題

【Point ④】 自分たちのためだけではなく、他の人にとっても価値がある課題であること
自己満足ではなく、自分たち以外の人たちにとっても大切な課題

この結果、次のような課題が設定されました(一部)。

テーマ	課題
スポーツ	なぜ陸上競技は絶対的にドーピングを使ってはいけないと言われているのか。
まちづくり	函館をデンマークにするためにはどのようなことが必要なのか。
科学技術	なぜ科学技術は障がいを持っている人の手助けになっているのか。
観光	函館山はなぜ三大夜景から外されたのか。
教育	生徒の表現力を高めさせるために、中学と大学で先生に求められる授業の共通点はどんなものか。
芸術	函館美術館で行う絵画の展覧会やイベントの企画・工程は他の美術館と比べ、どのような相違点と共通点があるのだろうか。
健康	北海道で一番多い癌、またその原因は何か。
防災	学校でより効果的な避難訓練を行うためにはどのような点を改善すれば良いのか。
言語	世界の共通言語である英語に全ての国の言語を統一しないのはなぜか。～コミュニケーションに焦点をおいて～

情報の収集

グループ探究活動Bでは、グループ探究活動Aで高めた資質・能力や取り組んだ内容を踏まえて、グループごとに、課題の解決を目指した情報の収集に取り組みました。とくに第2学年は、「探究のための基礎的・基本的なスキルの習得と演習【主に情報活用に関する事柄】」で中心的に取り組んだ、書籍を活用した情報の収集が重視されました。

「情報の収集」としての市内調査活動

第1学年と同様に、自分たちの生活の場である函館市をフィールドとした情報の収集として、市内調査活動を実施しました。当日は、本校を拠点に大学や各種施設を訪問して、インタビュー調査を行いました。行程の中では、函館市中央図書館への訪問を必ず行うこととされ、課題解決のためにふさわしい書籍を借用しました。

整理・分析

市内調査活動、そして書籍やインターネットなどを通して収集した数多くの情報から、自分たちの課題を解決するために必要な情報を整理していきました。また、それらの情報を分析して、自分たちの課題に対する答えを導き出していきました。



まとめ・表現

情報の整理・分析を踏まえて、まとめを行いました。グループ探究活動Bでは、グループ探究活動Aと同様に、Googleスライドの共同編集機能を活用して、発表資料を作成しました。

また、大学教員や保護者などを対象にして実施する「成果報告会」に向けて、聴衆を意識した発表の準備や練習を行いました。

「まとめ・表現」としての成果発表会

グループ探究活動Bの取組の成果を発表する機会として、北海道教育大学の教員や保護者などを対象にして「第2回成果報告会」を開催しました。当日は、グループ探究活動Aと同様に、Googleスライドを印刷したものを模造紙に貼り付けるかたちで発表を行いました。

また、全グループの発表後には、「探究のための基礎的・基本的なスキルの習得と演習【主に情報活用に関する事柄】」でご指導いただいた山口好和先生（北海道教育大学）から講評をいただき、卒業研究に向けたアドバイスを受けました。



他グループの生徒に向けた発表



保護者や生徒に向けた発表



大学教員との質疑応答



他グループの生徒との質疑応答



保護者や生徒に向けた発表



山口先生からの講評と助言

第2学年10月～第3学年12月 卒業研究

課題の設定

生徒1人が1つ、探究する課題の設定に取り組みました。課題の設定では、次の3点が【Point】として示され、これらを踏まえて取り組みました。また、課題は、学年団の教員3名から承諾印を受けることで確定とする方法を取り、質の高い課題の設定を目指しました。



設定した課題への指導

**【Point ①】 自分自身の生活やこれまでの学びと関係の深い課題であること
自分の興味や関心から始まる課題**

**【Point ②】 10か月という期間の中で解決することができる適切な課題であること
長期間の中で、中学生として解決まで導くことのできる課題**

**【Point ③】 自分のためだけではなく、他の人にとっても価値がある課題であること
自己満足ではなく、自分たち以外の人たちにとっても大切な課題**

この結果、次のような課題が設定されました。

人類にシンギュラリティが起こり、人工知能が人間の限界を超えた時の超知能はどのように科学技術を進化させるのか？

少子高齢化が進む日本にとって、AIを搭載した介護ロボットはどのような未来を切り開いてくれるのだろうか。

人工知能が想像力を持つにはどのような技術が必要なのか

AIは自由な意思を持ち行動ができるようになるのだろうか。

中等教育においてICT機器を活用することにどのような意義があるのか。

勉強するときに最も効率の良い(短い時間で語句や単語を覚えることのできる)方法とはどのような方法なのか？

日本で行われる学校清掃にはどんな意味が隠されているのか

機械がどんどん進歩すると教師という職業はなくなるのか。

なぜレーニンとスターリンの政治体制は違ったのか？

不眠症や過眠症などの睡眠によって起こる病気は、人によって症状や病気のかかり方や原因は違うのか。それとも、何処かに共通点があるのだろうか。

小学校・中学校・大学校の中で、高等学校は誕生時からどのように役割を変化させてきて、これからはどのような役割を果たすことが望まれているのか？

企業や団体の経営状態・知名度等と、ロゴマークのデザインやカラーはどのような関係があるのか。

芸術センスとはどのような要因によって決まるのか？

今後名画を残すためにはどのようなことが必要なのか。～世界に残る名画は、どのように保存されてきたかに着目して～
なぜ白血病は若い人にかかりやすく、完治（薬を飲んだり、治療をしたりする必要のない状態のとき）する人と完治しない人がいるのはどうしてなのか？
ゲノム編集CRISPR-Cas9の可能性は何か？
「地球外生命体」の名称で知られている宇宙人はなぜ存在すると言われているのか？
陸上で苦しくなり、気持ちが持たなくなるときにメンタルを強く持つことの重要性はどのようなものなのか？また、他のスポーツはどうなのか？
言葉は何故変化するのか？～現代の若者言葉に着目して～
友人関係は生活にどのような影響を及ぼすのだろうか。
外国と関わりのある場所では、どのような工夫をして人と接しているのだろうか。
「日本の外国と関わりのある場所ではどのように人と接しているのか？」
出川イングリッシュのようにボディランゲージを英会話で用いると、どれほど伝わりやすくなるのか。
「英語が話せる」というのはどのレベルに達すれば言えるのか。
小学校から英語の授業をすることで中学校や高等学校の英語にどのようにつながっているか。
2050年、人類がAIにうばわれない職、新しく生まれる職とは何か。それはなぜか。
人工知能と人間は医療という分野を通してどのように共存していくことができるのか。
人間はなぜAIを必要としているのか。～人工知能の発展における職業の変について～
函館～東京を新幹線が三時間台前半で運転するにはどのような技術とスピードが必要なのか、また達成されるのはいつになるのか。
「地球に優しい」自動車とはどのようなものなのか？
未来の自動車はどのようになるのか？
スポーツ選手にとってにバランスの良い食事は何なのか？
AIはスポーツ分野において、これからどのように役立っていくのだろうか。
今後、新しい変化球はうまれるのか。また、今ある変化球はどのように進化していくのか。
「漫画・アニメがもたらす影響は将来的に良いものなのか,悪いものなのか」
日本の漫画が海外で注目される背景はどのようなものなのか
アニメやマンガのいわゆる「魔法少女」にとって、「魔法」とは心の成長にどのような働きをしているのだろうか。
なぜイメージトレーニングをすると運動能力が向上するのか。
ピッチ走法、ストライド走法、どちらがより早くゴールできるか。他に、陸上部とサッカー部、野球部などの球技の走り方の違いが出るのはなぜか。
健康づくりに良いとされているスポーツには体に与えるデメリットがあるのか、あるならばそれはどういうものか

チームスポーツの試合におけるメンタル面はどのようなものなのか
頭で覚える「陳述的記憶」と体で覚える「手続き記憶」を効率良く組み合わせるにはどうしたらいいのだろうか。
高校受験におけるスキマ時間の有効的な活用方法とその効果についての研究
中学生男子の瞬発力はトレーニングでどれくらい鍛えることができるのか？
人はどのように持久力がつくのか
中学野球において試合前にどのような準備をすれば試合で最高のパフォーマンスができるのか～稲見流スポーツ論に着目して～
なぜスポーツ選手は正々堂々試合をするのか。
ロングセラーペンから見る追求、大切にしてきたことは何か～そのペンの最終的な目標とは～
K-POP（韓国グループ）はなぜ世界で人気なのか
最近のYouTuberはなぜTVにも出演するのか？
これから地球がまた全球凍結したときに人間が生き延びることはできるのか。また、生き延びるために必要なことはどんなことか。
人にとって音楽とは何か、どのような影響を与えるのか。～クラシック音楽とJ-popに注目して
多くの人たちでつくる音楽はなぜ観客を感動させることができるのか。
日本社会に浸透してきたゲーム産業は私達の将来にどのような影響を与えるのか？
なぜamazonが世界で人気になれたのか。また、今後どのように規模を拡大していくのか
ケータイが発展することによって人々の生活はどのように変化していくのか
身近にあるスマホやPCなどの科学技術は将来的にどのようなものになるのか。また社会はどのような影響を受けるだろうか。
ライトノベルの存在意義は何なのか？また、ライトノベルは社会にどのように貢献しているのだろうか？
日本のサメと人間が共存していくにはどうすればよいか
マンモスの血や臓器から細胞を用いてクローンをどのように作り出すのか、そしてそれは本当に実現可能なのか？
新しく免疫療法が開発されたが、それは、私達の生活にどのような影響を及ぼすのだろうか。
ミドリムシは、今後どのように人々の食生活に関わってくるのだろうか。
これからVRなどの仮想現実のゲームはどのように進化していくのか。また、これから私達の生活にどのように役立っていくのか。
いじめ問題を無くしていくために、同じ立場にいる学校の生徒達で解決につなげるために、すべきことは何か？
アニメやゲームの業界が、全く異なる業界とコラボレーションすることによって、人気が出るのはなぜなのか。
ヒトはなぜ睡眠を必要とするのか？

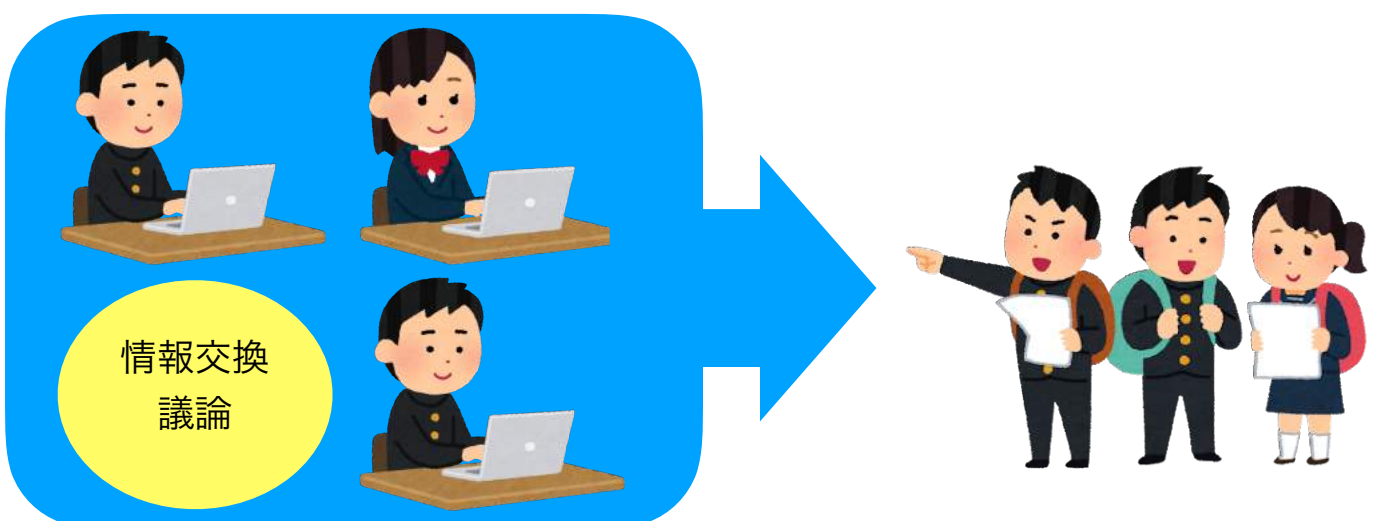
歴代のバラエティ番組の視聴率が高い番組は1970年代、1980年代に放送されたのものが多く、現在のバラエティ番組と制作費や作り方の面でどのような違いがあるのか。
スマホゲームの普及によりビデオゲーム会社がどのような工夫をしてゲームを開発しているのか。また、そのような工夫によって生まれた人気のゲームにある共通点はなにか。
少子化や人口減少さらにネット、スマホの普及により「テレビ離れ」が進んでいる現在、テレビ局ではどのような対策をとっているのか？また、その対策は各局で違いや共通点はあるのか？
ワンピースはなぜ多くの人に愛されるのか
100年以上も前に作られたクラシック音楽曲が今でも多くの人に愛されているのは何故か？
YouTubeで再生回数が多く、10代～20代が共感するJ-popの歌詞とメロディーにはどのような共感ポイントがあるのだろうか。
悲しい時に悲しい曲を聴く傾向にあるのはなぜか。また、その時の感情の変化はどうか。
日本国の借金を10年以内に返済するためには今後日本政府は税についての政策をどのようにしていくべきか。
Tリーグが開幕したことにより、日本の卓球に変化はあるのか。
ビジネス業界で今本当に必要とされるのはどのような力なのか
生物体利用技術などを利用して、植物都市を作るには、どのような条件を満たせばよいのか。
女性らしい和の仕草や、心遣いはどのように変わってきているのか。
ファッション雑誌で紹介されている服は、人にどんな印象を与えるのか。
2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて「おもてなしのデザイン」はどうあるべきか。また、函館にどう応用できるか。
サウンドクリエイターに求められている力とはどのようなものなのか。また、人気ゲームのサウンドクリエイターはどのような視点をもってゲーム制作にたずさわられているのか。
演劇における舞台演出の効果とは～照明と音響を中心に考える～
東京オリンピックを開催するにあたり、治安を維持するためにはどのような対策を行うべきか。
怪我をしてしまった選手たちを支えるメンタル面のサポートとは
剣道の試合において「気持ち」とはなぜ大事なのか？ ～気持ちが体に与える影響とは～
これ、あれ、それでだいたいの要件が通じるのはどのような人間関係のときなのか。
なぜ、日本ではカレーがよく食べられるようになったのか？
最近、おしゃれな食べ物や可愛い食べ物が多く見られるが、そのような見た目は食欲にどんな影響を与えるのか。また売れ方はどのように変わるのか。
日本人は、五感を使って料理を楽しむと言われているがそれは日本人にどのような影響を与えているのか。
野球選手はチャンスの場面で、どのような行為や心構えをして打席に立ち、結果を残しているのか？
中学野球において試合でのベストパフォーマンスのために必要なトレーニングや練習は何か

怪我をしないでスポーツを続けるには日常的（練習以外の場面）にどのようなことを気をつければ良いのか。
プロ野球選手がプロになるためには どのような食生活をする必要があるのか
人間は動物の感情をどこまで理解することができるのか
なぜ人は夢をみるのか？
動物（ホニユウ類）のストレス（※精神的な不安など）を解消するためにはどのような工夫ができるのか。また、人間とのストレスの違いは何か。
明晰夢をみている時、寝ているはずなのに日常に近い感覚を感じるのはどうしてか。
なぜ、昭和の文化に惹かれる10代後半～20代前半の若者がいるのか。
親が自分の子どもを愛するのはなぜか
人間が暗闇を怖がる原因は何か
なぜスタジオジブリの作品は長年愛され続けているのか？
なぜディズニーリゾートはリピート率が高いのか。
なぜディズニーリゾートは人気を保ち、ゲストがたくさん来るのか

グループの構成の工夫

卒業研究は「生徒1人が1つ、探究する課題の設定に取り組む」ものです。しかし、同じテーマや似たテーマで追究する生徒同士が、互いの課題や取組状況、課題に対する考えや結論などを議論することは、「市民性」の育成にとって、大変重要な活動だと考えました。

そこで、卒業研究をともに取り組む仲間として、3～4人のグループを構成しました。このグループは、修学旅行の自主研修で行動をともにする自主研修グループとしても機能しました。



卒業研究は個人で取り組むが、それぞれの取組状況や課題に対する結論などについて情報交換や議論を行う仲間として、グループを構成

修学旅行の自主研修ではこのグループごとに行動し、それぞれがインタビュー調査を実施

指導体制の工夫

これまでのグループ探究活動では、7人または3～4人という複数人で共通の課題を設定し、その解決に向けて取り組んできました。しかし、卒業研究は生徒1人が1つの課題を設定し、それぞれがその解決を目指した取組を積み重ねるものです。さらには、成果として個人が卒業論文を執筆するという取組もあるため、これまでのような学年団（教員数4～5名）のみの指導体制では、十分な指導や助言を与えることができないと考えました。

そこで、課題の設定後からは、本校のすべての教員が「卒業研究に取り組む生徒の指導に当たる」という指導体制を構築しました。実施にあたっては、「探究【卒業研究】指導者必携」を作成し、共通理解を図りました。その中でも「なぜ全教員で学年の生徒の育成に取り組むのか」の確認を大切に行いました（以下参照）。

3.卒業研究を指導するにあたって～なぜ全教員で学年の生徒の育成に取り組むのか～

(1) 全教員で生徒の資質・能力を育成するための手立てとして

学校という場では、学年セクトの独自性や独立性が強く、それぞれの学年の生徒の育成は、当該学年団の指導(力)が問われてきました。それは、「学年の意向」という言葉からも理解できるように、当該学年の生徒の実態に応じた指導が期待できるという反面、学年団を構成する教員の趣味嗜好によって指導の方向性が左右されるという状況を生み出してきました。

このような状況に対してよく語られるのが、「すべての教員ですべての子どもをみる」というものです。しかしこれは、小規模の学校を除けば、多くの学校はスローガンの域を超えることはほとんどありません。

しかし、卒業研究は、生徒一人一人の興味や関心に基づいて設定される課題を追究するという態様で展開されます。このような、いわば学術的な多様性を保証するためには、これまでのような100名を超える生徒を、4名または5名の学年団で指導することは、適切ではありません。ここではまさに、「すべての教員ですべての子どもをみる」ことが求められます。それはつまり、「卒業研究」を通して、全教員で生徒の資質・能力の育成を実現しようとする試みであり、きわめて具体的な手立てです。

(2) 教科等横断を実現するための手立てとして

卒業研究では、1人の先生のもとに5～6人の生徒が配置されます。そこで各先生は、生徒にとって「指導教官」となるわけですが、ここで先生方に期待される役割は「内容に詳しい人」ではありません。ですので、理科に関するテーマや課題に取り組む生徒が、必ず理科の先生のもとに配置される、というわけではありません。もしかすると、全く詳しくない内容を探究する生徒が配置されるかも知れません。しかしそれは、次の2つの理由によるものです。

①指導教官として「研究の進め方」を指導する

先生方に期待されている役割は、「内容を知っている人として、その内容を教えてあげること」ではありません。そうではなくて、「どうやったら生徒の研究がうまく進んでいくのかを指導すること」です。みなさん自身が経験した「研究」の経験を基に指導にあたってください。具体的には、生徒が情報の収集に行き詰まっていたら、「図書館には行って見た？」や「大学の先

生にメールで聞いてみたら?」と、アドバイスすることです。生徒の考えを支える資料の数が足りないと感じたら、「もう少し資料を集めたほうがいい」と、アドバイスすることです。もしかしたら、「あなたの主張と同じことをすでに言っている人はいないの?」と、先行研究の調査不足を指摘することかも知れません。すなわち、学部や大学院で行われる「研究指導」を期待しているのです。

確かに、こういう指導ができるようになるために、最低限知っておかなくてはならない内容もあるでしょう。しかしそれは、指導をする立場として、指導教官として勉強してください。これからの社会では、「分かり切った正解が用意されている学習」に重きは置かれませんが、「どうしたら正解(らしいもの)にたどり着くことができるのかを考えトライする(そして、エラーがあればまたトライする)学習」に重きが置かれます。その学びを支えるにふさわしい資質・能力の向上が、私たち教員にも求められています。

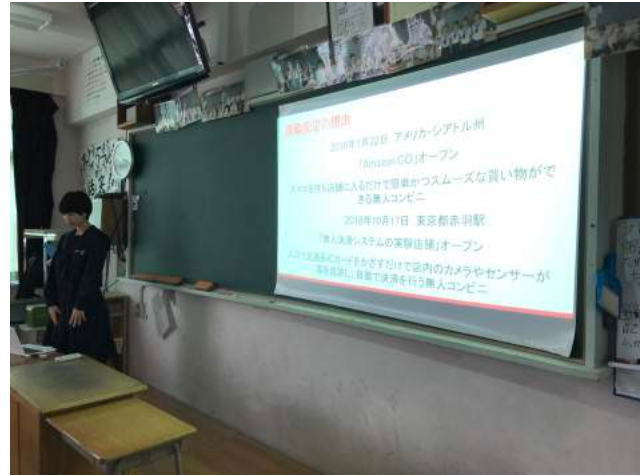
②それぞれの教科ならではの「見方・考え方」から指導する

本校での研究では、教科等横断的な取組を実現するための手段として、カリキュラム表の作成を行いました。カリキュラム表を作成することによって、授業者が自らの授業に関わる資質・能力や他教科等との関連に自覚的になることを意図したものです。しかしこれは逆を言えば、「俯瞰してみたら」教科等横断している、というようなアプローチになります。もちろん、これだけが教科等横断のすべてではありません。ですが、教科担当者がそれぞれの教科の内容に関する打ち合わせを行い、時期を調整して、合科的な授業を意図的・継続的に実施することは、きわめて困難であると言わざるを得ません。

そこで、卒業研究では、それぞれが異なる専門性や趣味を有す教員が、生徒の指導に当たることによって、教科等横断的な指導が展開されることを期待しています。具合的には、例えば、宇宙に関する課題に取り組んでいる生徒がいるとしましょう。そして、この生徒の指導教官は国語科の教員だとしましょう。一見、「宇宙なのだから理科」となってしまうがちですが、ここに国語科の教員が指導に入ることによって、もしかしたら宇宙をテーマにした文学作品やその系譜などを助言できるかもしれません。このとき、指導を受ける生徒の中では、理科的なアプローチに加えて、国語的なアプローチも展開されることとなります。つまり、教科等横断が一人の生徒内において展開される、ということです。

ですから、みなさんのもとに配属された生徒の課題が、自分の専門や趣味から外れていることを理由にして思考停止することは避けてください。むしろ、自分が指導教官であるからこそその助言を心がけてください。そして、自分が助言できない事柄に関しては、生徒を他者につないであげてください。

また、教員の「ゼミ」には、「グループ構成の工夫」で説明したグループを1つの単位として生徒を配属しました。各教員が卒業研究に関する指導を行う時間として、「卒業研究指導（ゼミ）」を、1か月に1回程度、他学年が5時間授業で完全下校となる水曜日の6時間目に実施しました。



こぼればなし

「全教員で卒業研究に取り組む生徒の指導に当たる」という挑戦は、すべての教員にとって初めての経験でした。当然、戸惑うことも多くありましたが、職員室内での会話でお互いの指導方法や生徒の状況などを確認し合いました。

また、年度末には職員会議の場で、先生方それぞれが困っていることを自由に話し、それに対して担当者が考えた具体的な方策を共有し、その方策を用いてまた指導にあたっていく、という手探りの中で進んでいきました。

情報の収集

課題を設定した後、それぞれの「ゼミ」に配属された生徒は、指導担当の教員の指導や助言を受けながら、情報の収集に取り組みました。

とくに卒業研究では、首都圏での修学旅行を情報の収集の機会として設定していることから、インターネットや書籍を活用した学習と並行して、自主研修の訪問先の選定やルートづくり、質問づくりを重点的に取り組みました。なお、自主研修に関する取組に対しては、学年団による指導を行いました。

また、生徒が追究する課題に応えることのできる書籍が、本校図書室には十分に準備されていないため、北海道教育大学附属図書館と連携し、大学の蔵書を借用できるシステムを構築しました。



「情報の収集」としての修学旅行

修学旅行では、「グループ構成の工夫」で説明したグループを1つの単位として自主研修を実施しました。訪問先の選定や依頼については、すべて生徒がメールや電話を利用して行いました。

また、31のグループの安全を確保するため、宿泊研修と同様に、行動するグループがGPS付き携帯電話を1台ずつ持ち、本部ではパソコン画面を通じて確認を行いました。



財務省でのインタビュー調査



目白大学でのインタビュー調査

修学旅行では、以下の皆さんや事業所の方々に、インタビュー調査へのご協力をいただきました（一部。敬称略）。

<研究者>

東京藝術大学美術学部	日比野克彦先生	東京大学理学系研究科	田近 英一先生
東海大学体育学部	高妻 容一先生	東京大学理学系研究科	遠藤 一佳先生
芝浦工業大学工学部	矢作 裕司先生	十文字学院女子大学	伊藤 恵子先生
日本大学スポーツ科学部	種ヶ島尚志先生	成蹊大学	安田 晶子先生
東京大学教養学部	板津木綿子先生	東京医科大学睡眠学講座	大川 匡子先生
大妻女子大学対人関係学部	本田 周二先生	中央大学大学院戦略経営研究科	田中 洋先生
東京藝術大学美術学部	川瀬 智之先生	早稲田大学スポーツ科学部	矢内 利政先生
東京藝術大学美術学部	林 卓行先生	桜美林大学 ビジネスマネジメント学群	山口 有次先生
東京藝術大学美術学部	本郷 寛先生	東京大学医学系研究科	川上 憲人先生
東京藝術大学美術学部	越川 倫明先生	江戸川大学	福田 一彦先生
玉川大学教育学部	樋口 雅夫先生	法政大学法学部	下斗米伸夫先生
東京大学 先端科学技術研究センター	稲見 昌彦先生	工学院大学	曾根 悟先生
東京電機大学	高橋時一郎先生	昭和大学	角野 卓也先生
東京大学哲学研究室	納富 信留先生	東京大学大学院教育学研究科	遠藤 利彦先生
東京学芸大学教育学部	大竹美登利先生	慶應義塾大学医学部	柚崎 通介先生
千葉大学教育学部	西野 明先生	東京医科大学難病治療研究センター	善本 隆之先生

<企業>

株式会社MJJ	株式会社IBM
AI TOKYO LAB株式会社	株式会社sports AI
株式会社design am	株式会社ユーグレナ
秋田書店（「週間少年チャンピオン」）	株式会社イーオン東京本社
講談社（「なかよし」）	株式会社vost
株式会社シーオーツー（「いぬのきもち」）	株式会社TSDO
デンソーITラボリー	Larme編集部

<その他>

ナカイサヤカさん（翻訳家）	芥隆司先生（三田国際学園中学校教諭）
理化学研究所 革新知能総合研究センター	小笠原流礼法宗家本部
財務省主計局	三鷹の森ジブリ美術館
警視庁オリンピック・パラリンピック競技大会 総合対策本部	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション 協会

整理・分析

修学旅行の自主研修、そして書籍やインターネットなどを通して収集した数多くの情報から、自分の課題の解決のために必要な情報を整理していきました。また、それらの情報を分析して、自分たちの課題に対する答えを導き出していきました。こうした活動は、担当の指導教諭からの指導を受けながら、生徒が個人で取り組みました。

また、月1回のゼミでは1か月の間に生徒自らが取り組んだ成果を協議するなどの取組を通して、課題解決のために必要な情報の整理を積み重ねていきました。



まとめ・表現

卒業研究では、①卒業論文の執筆（7月末まで）と、②第3回成果報告会での発表（12月）という2つの表現の場を設定しました。

「まとめ・表現」としての卒業論文

本校がBYODによる一人一台のICT環境を整備した理由の一つとして、「卒業論文」の執筆があります。これまでのグループ探究活動AとBでは、成果報告会として、スライドの印刷物を利用した口頭での発表のみを行ってきました。しかし、自分が設定した課題を解決するために、長い時間をかけて取り組んできた卒業研究の成果を整理する方法として、論文執筆を設定しました。それは、自らの探究の過程や成果を丁寧に論証し、記述することが適切であると考えたからです。論文の執筆にあたっては、執筆要領が示されるとともに、テンプレートが示されました。

「まとめ・表現」としての成果報告会

卒業研究にかかる第3回成果報告会は、12月に大学教員や保護者、他学年生徒、地域の方々に対して実施する予定となっています。

北海道教育大学附属函館中学校 卒業論文 執筆要項	
2019.3.6 研究部	
①	テンプレートは、ドキュメント>「新しいドキュメンを作成」横の「テンプレートギャラリー」>「北海道教育大学附属函館中学校」の「卒業研究（様式）」にある。なお、テンプレートの書式は、1行を42字で設定している。
②	原稿は、「Google ドキュメント」で、A4判横書き1ページを1段組、1段42字、行間隔1.5行として作成すること。
③	章立ては、原則として、「1、(1)、①、1」…とする。
④	1および2については、それぞれ「1. はじめに（課題設定の理由）」、「2. 研究の方法」とする。また、最後の章は、「〇. まとめ」として、本論文での課題に対する整理や主張を論述する。
⑤	フォントは明細体として、ポイント以下の通りとする。 ・統一タイトル（北海道教育大学附属函館中学校 2018-2019年度卒業研究）：11pt ・論文タイトル（主）：14pt ※太字（B）とする。 ・論文タイトル（副）：12pt ※太字（B）とする。 ・所属（北海道教育大学附属函館中学校3年〇組）：11pt ・氏名：14pt ※7文字分での表記（例：伊集院 静） ・項タイトル：12pt ・本文：11pt ・注を表す（1）など：8pt
⑥	図や表、画像などは論文の構成における必要最小限の量とスペースを用いることとする。なお、図や表、画像などを用いた際は、そのスペース分の文字数をカウントすること。
⑦	引用を行なった場合は、本文中の関連する部分末に（1）などと表記し、最終ページに「註」として示すこと。なお、この際の（1）などのポイントは8ptとして、差し番号とする。
⑧	数字は算用数字を原則として、句読点は「、」「。」とする。
⑨	図表等は白黒で内容を読み取ることができるようにすること。

評価 evaluation

育成を目指す資質・能力に基づいた自己評価

2つのグループ探究活動を終えた際、その学習活動でインタビュー調査を行なった訪問先や参考にした書籍、学習活動を通して高まったと考える資質・能力に関する自己評価を行いました。またこの結果は、個票にして生徒に配布しました。こうした生徒への「還元」は、Googleフォームを利用して実施し、その結果が表計算ソフト（Googleスプレッドシート）に反映される仕組みを活用することで、容易に実施することができるものです。

また、通知表では、これらの自己評価を踏まえながら、所見を記入しました。

Q5. 【情報の収集】 課題を解決するためのインタビュー調査を行うのにふさわしい人物や施設などを訪問し、必要な情報を聞き取ることができましたか？ *

とてもそう思う。

少しそう思う。

あまりそう思わない。

まったくそう思わない。

Q6. 【整理・分析】 収集した情報から、課題を解決するためにふさわしい情報を選択し、適切に整理することができましたか？ *

とてもそう思う。

少しそう思う。

あまりそう思わない。

まったくそう思わない。

Q18. 【情報活用能力】 「成果報告会」(10.19)においてあなたが発表するとき、どのようなことに気づきましたか？ 具体的に教えてください。 *

回答を入力

Q19. 【探究】 「グループ探究活動B」への取り組みを通して、あなたが一番高まったと思うのは、どのような力ですか？ 具体的に教えてください。 *

回答を入力

Q20. 【探究】 「卒業研究」（個人）をよりよく取り組むために、今後どのような力を高めていく必要があると思いますか？ 具体的に教えてください。 *

回答を入力

自己評価を行うGoogleフォーム

	W	X	Y	Z	AA	AB	
1	Q14. 【学びに向かう力】	Q15. 【学びに向かう力】	Q16. 【学びに向かう力】	Q17. 【学びに向かう力】	Q18. 【情報活用能力】 「成果報告会」(10.19)に	Q19. 【探究】 「グループ	Q20.
2	あまりそう思わない。	少しそう思う。	まったくそう思わない。		出来る限りスラスラと喋ること。	情報収集能力	発表
3	少しそう思う。	少しそう思う。	あまりそう思わない。		あまり速く喋りすぎずに、スライドをなるべく見	収集した情報から課題解	課題
4	とてもそう思う。	とてもそう思う。	少しそう思う。		必要な情報だけ抜粋する。大きな声で話し、相手の目をみること。	表現力	予期
5	とてもそう思う。	少しそう思う。	とてもそう思う。		日本だけでなく世界に受け渡す。相手の目を見る、ゆっくりと喋る、手を	得た情報を整理し、ま	多く
6	とてもそう思う。	とてもそう思う。	あまりそう思わない。		不必要な事は話さず、的確に正しい情報だけを相	チームワーク(回結力): 件	一人
7	とてもそう思う。	少しそう思う。	あまりそう思わない。		相手に伝えたいことをしっかりと伝えられるように	得た情報の中から必要な	得た
8	とてもそう思う。	少しそう思う。	とてもそう思う。		海外の人達はどの欲求を身振り手振りををつけて発表すること、しーんと	緊張にたえる力	冷静
9	とてもそう思う。	とてもそう思う。	とてもそう思う。		アンケート結果からかな！スライドにかけている情報をわかり易く理解して	必要な情報を見分ける力	情報
10	とてもそう思う。	少しそう思う。	とてもそう思う。		少子高齢化で私達が高齢にできるだけ、まわりの聞いてくれている人を見る	責任感、スピーチ力	言い
11	とてもそう思う。	少しそう思う。	とてもそう思う。		ガンの安全な治療法は何？身振り手振りや言葉の発音をはっきりさせたりし	プレゼンテーション能力	情報
12	少しそう思う。	とてもそう思う。	とてもそう思う。		卒業研究のテーマにした。聞き手に目を向けて、相手が聞き取りやすいよう	考えを共感し合い、ま	自分
13	とてもそう思う。	とてもそう思う。	あまりそう思わない。		コミュニケーション能力を特に気づいた。例え	情報処理能力が高まった	その
14	とてもそう思う。	とてもそう思う。	あまりそう思わない。		スライドをたまに見ながらだったけど聞きに来て	質問を考える力・仲間と	今よ
15	少しそう思う。	とてもそう思う。	少しそう思う。		服が流行るには順番がある。声の大きさ	アポを取る電話ができる。日本	
16	とてもそう思う。	とてもそう思う。	あまりそう思わない。		声のボリュームや相手にうまく伝えられるように	観光客についての正しい	

自己評価の入力結果が反映されたGoogleスプレッドシート

探究（2018）グループ探究活動 B 振り返りシート

2 年 組 番 氏名

【グループ探究活動 B のテーマ・課題・訪問先】

テーマ	国際理解
課題	アメリカと日本の人権～家庭での役割の違いは何か？～
調査	市内調査活動 教授（北海道教育大学函館校）
	文献調査 「どうする日本の女性政策」クライン孝子、海竜社、2015 年

【グループ探究活動 B についての自己評価】

知識・技能	自ら設定した課題を解決するために必要な知識を待たり、技能を身に付けたりすることができた。	B	
	自ら設定した課題を解決するための学習を通して、探究的な学びの良さを理解することができた。	B	
思考力・判断力・表現力等	課題の設定	いくつかの課題の中から、解決の見通しを持つことのできる適切な課題を設定することができた。	A
		グループの仲間と話し合ってグループ課題を設定することができた。	B
	情報の収集	グループの仲間との交流を通して課題を発見し、積極的に関わろうとすることができた。	B
		インタビュー調査や、インターネット及び書籍などのさまざまな手段を活用して、情報を収集することができた。	B
	整理・分析	課題を解決するためのインタビュー調査を行うのにふさわしい人物や施設等を訪問し、必要な情報を聞き取ることができた。	B
		収集した情報から、課題を解決するためにふさわしい情報を選択し、適切に整理することができた。	B
		疑問に感じた点や困難さを感じた点について、仲間と話し合うことで、よりよく解決することができた。	B
		課題を追究するために収集した様々な情報を多角的に捉え、適切なものを判断して選択することができた。	A
	まとめ・表現	収集した情報から課題解決に結びつく情報を選択したり、組み合わせたたりすることができた。	A
		発表資料の作成や発表の準備をする際には、これまでに学習した知識や技能を活用して取り組むことができた。	A
課題やその追究の過程について、わかりやすい構成を考えながらまとめ、発表することができた。		A	
学びに向かう力	伝える相手の立場や状況を意識しながら、適切な方法を用いてまとめ、発表することができた。	B	
	伝える相手の反応を見ながら声の大きさや身振り手振りを工夫するなどして、発表することができた。	B	
	グループの仲間とともに協力して課題の解決に取り組むことの良さを実感することができた。	C	
	自ら設定した課題を解決する学習を通して、学習したことを自らの生活や学習に生かそうとすることができた。	A	
	自ら設定した課題を解決する学習を通して、次に探究する新たな課題を見いだすことができた。	C	

探究（2018）グループ探究活動 B 振り返りシート

2 年 組 番 氏名

【あなたが見つけた「次に探究する課題」】

【あなたが「成果報告会」（2018 年 10 月 19 日）で気がつけたこと】

聞いている人が聞きやすい声で、はっきりと大きな声で伝わりように気がつけた。

【あなたがグループ探究活動 B で高まったと考える力】

グループで積極的に意見を述べたり、協力していく力。

【あなたが「卒業研究」に向けて高めていく必要があると考える力】

情報の収集のときに聞きたいことを整理して、インタビューするときにはたくさんの情報を聞けるように、その前からしっかり準備して、情報をまとめるときは課題に近づける情報を選ぶ力。

自己評価の入力結果に基づいて作成・配布した個票

参考文献

- ・ 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』、2017年
- ・ 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間』、2017年、東山書房
- ・ 北海道教育大学附属函館中学校『探究【卒業研究】指導者必携』、2018年
- ・ 東京大学教育学部附属中等教育学校『生徒が変わる卒業研究 総合学習で育む個々の能力』、2005年、東京書籍
- ・ 東京大学教育学部附属中等教育学校『卒業研究ハンドブック 2005～2006年度（平成17～18年度）版』、2005年
- ・ 荒瀬克己『奇跡と呼ばれた学校 国公立大合格者30倍のひみつ』、2007年、朝日新聞出版

2019年度年間単元配列シート【探究】

月	第1学年		
	探究基礎		
4	「探究」及び「探究基礎」オリエンテーション（1）		
5	探究のための基礎的・基本的な スキル習得と演習A 【主に情報活用に関する事柄】 （7）	①情報モラル ②Gsuite for educationの活用（3） ③効果的な情報検索の方法（3）	
6	探究のための基礎的・基本的な スキル習得と演習B 【主に国語科に関する事柄】 （3）	①聞き取り調査の仕方 ②事前連絡の仕方 ③手紙の書き方、レポートの書き方、 引用や参考文献の示し方	
7			
8	グループ探究活動A （29） ※7人5グループ ※学年団による指導	オリエンテーション、グループ編成調査（1）	
		グループオリエンテーション（1）	
9		課題の設定、訪問先の決定（2） 訪問前事前調査活動（2）	
		宿泊研修における訪問学習（3）	
10		調査活動（6）	
11			
12			市内調査活動（6）
1			調査活動（1）
2			整理・分析活動 発表資料作成活動（4）
3			第1回成果報告会（2）
			「グループ探究活動A」に関する振り返り（1）
4-7,9-2	探究的な学びを創るためのリレー講演会 （「ツキイチ」プロジェクト） （10 2×5回）		
時数	50		

2019年度年間単元配列シート【探究】

月	第2学年	
	探究充実	
4		
5	グループ探究活動B (3) ※3人グループ ※教員5名による指導	グループ探究活動Bオリエンテーション グループ編成調査(1) グループ内役割の決定、課題の設定(2)
	探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習C 【主に情報活用に関する事柄】(2) ①インターネットからの情報・収集	
6	グループ探究活動B (10) ※3人グループ ※教員5名による指導	調査活動(6)
7	探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習C 【主に情報活用に関する事柄】(2) ②文献調査と図書館の利用	
		市内調査活動(4)
8	グループ探究活動B (20) ※3人グループ ※教員5名による指導	調査活動(7)
		整理・分析活動 発表資料作成活動(10)
9		第2回成果報告会(2)
10	卒業研究(3)	「グループ探究活動B」に関する振り返り(1)
		卒業研究オリエンテーション(1) テーマ設定のための事前調査(2)
11	※研究テーマを設定し、異なるグループの教員3名から承諾印を受ける。 ※10月31日までに完了する。	
12	卒業研究 (7)	指導教員ごとのグループオリエンテーション(1)
		情報の収集のための訪問先選択・アポイントメント(6) ※3時間は通常の時間割において確保する時間 ※アポイントメントに関しては、基本的にメールまたは電話にて行う。 ※直接的な指導は第2学年教員が行うが、訪問先等についての相談は指導教員と行う。
1		
2	卒業研究 (13) ※水曜日6時間目に実施 ※全教員による指導	研究指導(2)
		修学旅行における訪問学習(9)
3		研究指導(2)
4-7.9-2	探究的な学びを創るためのリレー講演会 (「ツキイチ」プロジェクト) (10 2×5回)	
時数	70	

2019年度年間単元配列シート【探究】

月	第3学年				
	探究発展				
4	卒業研究 (9) ※水曜日6時間目を実施 ※全教員による指導	研究指導(1) ※水曜日6時間目を実施	※各自で論文を執筆 ※論文提出締切は 7月31日16時		
		中間発表会(2)			
5					
6		研究指導(6) ※月1回水曜日6時間目を実施 ※全教員(18人)の指導			
7					
8					
9	卒業研究 (31) ※通常日課に実施 ※学年団による指導	発表準備(30)			
10					
11					
12					
1					
2			学びを生かした 地域貢献 (18)	「卒業研究」に関する振り返り(1)	
3	地域貢献に関するオリエンテーション・講演(1)				
4	地域貢献に関する講演会(2)				
5	義務教育での学びを生かした地域貢献(14)				
6		「学びを生かした地域貢献」に関する振り返り(1)			
7		「探究」に関する振り返り(2)			
8-9-2	探究的な学びを創るためのリレー講演会 (「ツキイチ」プロジェクト) (10 2×5回)				
時数	70				

2019年度 北海道教育大学附属函館中学校 探究（総合的な学習の時間）全体計画

【生徒の実態】
 ・自らの資質・能力の向上に対する意欲が高い。
 ・課題を設定することや、収集した情報から課題の解決に必要な情報を整理・分析することを苦手とする生徒が多い。
 ・自らの学びに基づいて社会に貢献しようとする意識が低い生徒が多い。

【地域の実態】
 ・生徒の学習や活動に対する理解が深く、過年度に実施してきた職場体験学習や、探究の市内調査活動等校外活動、土曜の課外授業等では積極的に受け入れる風土がある。

【学校教育目標】
 (1) 強い意志を持ち自主的に行動し創造性に富む生徒を育てる
 (2) 心身ともに健康で明るく情操豊かな生徒を育てる
 (3) 知性を磨き真摯に自ら努力する生徒を育てる
 (4) 秩序を守り 仕事を責任を持ち実践力のある生徒を育てる
 (5) 学校や郷土を愛し よりよい社会の建設に協力できる生徒を育てる

【探究（総合的な学習の時間）の目標】
 探究的な見方・考え方を働かせ、自らの興味や関心に基づいた事象に関する横断的・総合的な学習を行うことを通して、根拠や主張を明らかにしながらよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1) 自らの興味や関心に基づいた事象に関する探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、真理を追究する探究的な学習のよさを理解するようにつなげる。
 (2) 実社会や実生活の中から自らの興味や関心に基づいた問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を収集し、整理・分析することを通して根拠を明らかにした責任ある主張や意見を形成するとともに、相手意識のあるまともな表現をすることができるようになる。
 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、よりよい社会の建設に協力しようとする態度を養う。

【保護者や地域の願い】
 ・各教科での学習内容の確実な習得を求めている。
 ・変化の激しい社会に遅しく生き抜くことのできる資質・能力の育成を求めている。
 ・個人や家庭では体験できない豊かな体験的な活動の機会を求めている。
 ・集団生活を通して、社会の中で活躍することのできる資質・能力の育成を求めている。

【地域の願い】
 ・地域の教育に関するモデル校として、先進的な実践とともに、教育課程の開発及び提供を求めている。
 ・地域に貢献できる人材に求められる資質・能力の育成を求めている。

【スローガン】 「問い、続け、行動し続ける15歳へ」

【内容】目標を実現するための活動や学年、テーマ、人数、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力等	
活動内容	グループ探究活動A 第1学年（2.9時間）
学年	グループ探究活動B 第2学年（3.3時間）
テーマ	「国際理解」「情報」「福祉」「健康」「安全」「環境」「スポーツ」「観光」「観光」「まちづくり」「交通」「人口」「防災」「食」「資源・エネルギー」「教育」「言語」「科学技術」
人数	同一のテーマに興味・関心を有する7人 (同一の学級から構成)
指導体制	第1学年団教諭による指導
家庭・地域との連携・協働	・函館市の高等教育機関、事業所への訪問調査 ・附属小学校児童、保護者、大学教員を対象にした報告会
学校行事との関わり	宿泊研修（9月）・市内調査活動（12月）
知識及び技能	・自ら設定した課題を解決するために必要な知識を得たり、技能を身に付けている。 ・自ら設定した課題を解決するための学習を通して、探究的な学びの良さを理解している。
	・いくつかの課題の中から、解決の見通しを持つことのできる適切な課題を設定している。 ・グループの仲間と話し合ったりしてグループ課題を設定している。 ・グループの仲間との交流を通して課題を発見し、積極的に関わろうとしている。
思考力、判断力、表現力等	・課題を設定するためのインタビュー調査や、インタビュー調査や、インタビュー及び書籍などのさまざまな手段を活用して、情報を収集している。 ・課題を解決するためのインタビュー調査を行うのにふさわしい情報を選択し、適切に整理している。 ・収集した情報から、課題を解決するためにふさわしい情報を選択し、適切に整理している。 ・疑問に感じた点や困難さを感じた点について、仲間と話し合うことで、よりよく解決している。 ・課題を追究するために収集した様々な情報を多角的に捉え、適切なものを判断して選択している。 ・収集した情報から課題解決に結びつく情報を選択したり、組み合わせたりしている。
	・発表資料の作成や発表の準備をする際には、これまでに学習した知識や技能を活用して取り組んでいる。 ・課題やその追究の過程について、わかりやすい構成を考えながらまとめ、発表している。 ・伝える相手の立場や状況を意識しながら、適切な方法を用いてまとめ、発表している。 ・伝える相手の反応を見ながら声の大きさや身振り手振りを工夫するなどして、発表している。
学びに向かう力・人間性等	・グループの仲間とともに協力して課題の解決に取り組むことの良さを実感している。 ・自ら設定した課題を解決する学習を通して、学習したことを自らの生活や学習に生かそうとしている。 ・自ら設定した課題を解決する学習を通して、次に探究する新たな課題を見出そうとしている。

卒業研究
 第2～3学年（6.3時間）
 生徒個人の興味・関心に基づいたテーマ
 1人
 全教員（校長、副校長、養護教諭を含む）による指導
 ・函館市の高等教育機関、事業所への訪問調査
・函館市中央図書館での文献調査
・保護者、大学教員、地域住民を対象にした報告会
 修学旅行（第2学年2月）

表現方法	<ul style="list-style-type: none"> グループごとにGoogleスライドの作成 (5枚) ※附属函館小学校6年生、保護者、大学教員に公開 	<ul style="list-style-type: none"> グループごとにGoogleスライドの作成 (6枚) ※保護者、大学教員に公開 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の執筆 (12,000～24,000字) 個人で発表資料の作成 ※全校生徒、保護者、大学教員等に公開
-------------	--	---	--

学習評価	探究的な学びを支えるための学習活動		
<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学びの過程における収集した情報やそれに対する記述等を紙媒体や電子的に保存し蓄積する (ポートフォリオを活用した評価の充実) 各活動を終えるたびに生徒による自己評価を実施し、その結果を指標にして生徒に還元し、個人内評価を重視する。 生徒の自己評価をまとめたものを指導に当たった教員が継承し、生徒の達成状況に合わせた指導を行う (指導と評価の一体化の充実) 学年末には指導計画等を評価・改善し、次年度の計画に生かす。 	ねらい	内容	
	オリエンテーション (1時間)	探究の3年間の学習の展開を見通す。	
	探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習A (主に情報活用に関する事例①) (7時間)	探究的な学習を行うためのスキルのうち、主にICTの活用に関する基礎的・基本的な内容を教授すること。	
	探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習B (主に国語科に関する事例) (3時間)	探究的な学習を行うためのスキルのうち、主に国語科に関する基礎的・基本的な内容を教授すること。	
	探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習C (主に情報活用に関する事例②) (4時間)	探究的な学習を行うためのスキルのうち、主に文献やwebからの情報収集に関する基礎的・基本的な内容を教授すること。	
ツキイチプロジェクト (10時間×3年)	事象に対する興味・関心や知的好奇心を高め広げることも、大学教員等の真理を追究する姿勢をロールモデルとして学ぶ。		<ul style="list-style-type: none"> 大学教員等や地域で活躍する方々を講師として招聘した講演会を実施する。形式は、他者との議論や交流等を含むものとする。 課題探究による自らの資質・能力の高まりを自己評価するとともに、今後の課題等を整理する。
探究の振り返り (2時間)	探究の3年間の学習を振り返り、今後を展望する。		

各教科等との関連			
<ul style="list-style-type: none"> 【国語】・文章からの情報収集 (筆者の意図の把握) ・手紙やメールの書き方、論理的な記述 ・探究課題となりうる内容の提示 	<ul style="list-style-type: none"> 【社会】・探究的な学びの過程による学習活動 ・資料の読取・活用 ・探究課題となりうる内容の提示 	<ul style="list-style-type: none"> 【数学】・「新たな疑問や問い」を生み出す学習活動 ・探究課題となりうる内容の提示 	<ul style="list-style-type: none"> 【理科】・探究的な学びの過程による学習活動 ・探究課題となりうる内容の提示
<ul style="list-style-type: none"> 【音楽】・探究課題となりうる内容の提示 	<ul style="list-style-type: none"> 【美術】・探究的な学びの過程による学習活動 ・探究課題となりうる内容の提示 	<ul style="list-style-type: none"> 【保健体育】・探究課題となりうる内容の提示 	<ul style="list-style-type: none"> 【技術・家庭】・探究課題となりうる内容の提示
<ul style="list-style-type: none"> 【外国語】・他者とのコミュニケーション、発表 ・探究課題となりうる内容の提示 	<ul style="list-style-type: none"> 【道徳】・指導の重点項目として、「自主・自律」「真理の探究・創造」「社会参画、公共の精神」「よりよき生きる喜び」を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【特別活動】・多様な他者と協働する様々な集団活動において、課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意欲決定したりする。 	

活動名	学びを生かした地域貢献
学年	第3学年 (18時間)
テーマ	「卒業研究」で追究したテーマ
人数	取組に応じた人数を生徒が主体的に編成する
指導体制	第3学年団教諭による指導
家庭・地域との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> 函館市の高等教育機関、事業所への訪問調査 函館市及び近郊地域の行政機関や事業所、高等教育機関等でのプレゼンテーション等
学校行事との関わり	卒業証書授与式 (3月)
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 課題に関する現状や制度、概念、仕組みについて理解している。 調査や諸資料から情報を効果的に調べとめている。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 課題について、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断している。 課題の解決に向けて、協働的に追究し根拠をもつて議論することを通して合意を形成している。
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 自立した主体として、よりよい社会の実現を視野に、自ら社会へと働きかけ、主体的・能動的に事柄に参画しようとしている。
表現方法	各生徒が選択する



「探究」が「市民」を育てる
～「問い続け、行動し続ける15歳」への挑戦～
2019（令和元）年6月14日

北海道教育大学附属函館中学校

〒041-0806 北海道函館市美原3丁目48番6号
電話 0138-46-2233 FAX 0138-47-6769
MAIL hak-fuchu@h.hokkyodai.ac.jp
WEB http://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_hak_chu/
Facebook <https://www.facebook.com/huefzhak/>